

04-042



L 21802

近世 22.7-04-042

再今等の
相ひへる
吉田の太

卷之三

原光の
年譜

見る御所の秋の墓
泡と絶叫で出来の所へ渡さうと
詰む道の路一歩を進むことを
餘りあり因縁からひ遠因を除くと
死後太極へなるが此の思想を語る

前文書
秋本年を
御余光の
御慶

御禮

すよと後方陣の麾りを離れて、左側に立つ

寶鏡本番錦

A vertical column of Chinese characters in a bold, stylized font, likely a title or main heading. The characters are arranged in a dense, overlapping manner, creating a textured appearance. The style is reminiscent of traditional woodblock printing.

之を以て之を止む
道上と交加する事無
而内壁十面

清元延壽大夫

日 素色太夫
白 拍賣太夫
上諭子箇元璣
清元璣治事

御田祭の社事の筋（一章）
青墓と申む也れ有難
まゐる方の御のち許へ受能つかうる
が難力の拘物り更に大後
速産助や名代の花繚

新宿の花火







三番目 大國後節吟味の場 同邊シ 分縁田馬場の場



大相
音 滋 滋 滋 の 湯



卷之三

八

卷之三

三

三

三

後人井の古丁井の
人河山中すれはる
下範義さ室し文田邑の
るのうのを文登登のう
急踏木橋越いいひ又助内助(又翁)宿齋内^ト

故後故後故後故後故後故後故後故後
東東東東東東東東
萬萬萬萬萬萬萬萬
太太太太太太太太

